

第1部

民間型環境直接支払制度と 生物多様性農業の支援

第2部

森林環境税



日時:平成20年4月19日(土) 13時~

会場:Qiball きぼーる 15F 多目的室(千葉市中央区)

- | | | |
|-------------|-------------------------------|----------------------|
| 13:00 | 第1部 開会 | 受付開始 (12:40) |
| 13:10~14:20 | 基調講演 「民間型環境直接支払制度と生物多様性農業の支援」 | 全国農業協同組合連合会 原 耕造氏 |
| 14:40 | 第2部 開会 | |
| | 基調講演 仮題 「日本の森林と国民負担・環境税の動向」 | 日本農業新聞社 農政経済部長 永井考介氏 |
| 15:30 | 報告 千葉県の森林の現況 (千葉県) | |
| 15:45 | パネルディスカッション | |
| | 林業家 君津市 | 藤平幸夫氏 |
| | 農政専門家 | 永井考介氏 |
| | 都市住民 千葉市 | 小西由希子 |
| | コーディネーター | 古谷尊彦氏 (千葉大学名誉教授) |
| 17:20 | 自由討論 「千葉県における森林環境税の条件」 | |
| | 司会 金親博榮 (ちば里山センター会長) | |



資料代 500 円

事前申込み不要

連絡先: 090-4678-8357 (金親)

主催: 里山シンポジウム実行委員会・千葉県・千葉市

東京情報大学・ちば里山センター・(社)千葉県緑化推進委員会

開催趣旨

民間型環境直接支払制度と生物多様性農業の支援

経済のグローバル化や、米の値段が下がり生産調整が進む一方で、食の安全への消費者の関心、生物多様性保全の必要性は年々高くなってきています。従来の経済合理性だけを追求する農業から『人と生きものに優しい農業』への価値転換を支援する活動が展開されています。

「農」の営みによってもたらされる豊かさに消費者が自ら支払う「民間型環境直接支払い制度」の提案と、それらを支援する生物多様性農業支援センターについてお話しをお聴きします。消費者として何ができるか、なりわいを支える仕組みをどう構築するか、ともに考えていきたいと思えます。

森林環境税

千葉県の里山は、材木価格の低落、担い手・後継者の不足による林業離れ、林地離れ、また産廃、ごみの不法投棄など今まさに存亡の危機にあります。しかし県民の8割を占める都市住民にはこの現状ほとんど知られておりません。一方わが国はCO₂の削減を国際的に公約し、森林による吸収にその中心的役割を期待しています。にもかかわらず、公的な支持体制は確立されておらず、一部では、林業家への無理解からその怠惰を非難する声も聞かれます。

そこで、林業・農業を担っている人が、もっと声を上げ、県民との意思疎通、情報交換をしていく必要があると考えます。また、期待される現代の農林業家の役割も再認識する必要があるでしょう。

水源や緑を守るためすでに29県で税による資金確保がおこなわれています。昨年の分科会では、環境税や森林環境税の仕組みやあり方を学びました。しかし、国民全体で支えるという総論では賛成でも、いざ具体的な税負担になると合意形成は簡単ではありません。林業の実情、県民負担のあり方、期待される効果、各部門の役割等について、いろいろな立場の人たちが、共通のテーブルで話しあう機会を作りたいと考えています。



イラスト：松下優子